

『中央學術雜誌』細目

十重田 裕一 編

凡 例

一、本細目は、雑誌『中央學術雜誌』の内題に従い作成した。そのため、題名が目次と異なるものもある。また執筆者名も内題に即し、誤記と思われるものも含めてそれをそのまま活かすべく統一してはいない（「承前」「前号ノ続キ」なども同様）。表題名のルビはつとめて付してある。調査には早稲田大学図書館所蔵本を使用し、マイクロ版（ナダ書房）も参照した。

一、旧字・異体字は、現在一般的に用いられている表記に改めた。ただし、書名など、旧字のままにしたものも若干ある。

一、著者名の下段の数字は頁数を示す。すべて当該雑誌にあたって最終頁も記した。

一、各号雑誌後半に「広告」がまとめて掲載されているが、その記録を行い、さらに広告文も書物に関するものを中心にできるだけ翻刻した（重複を避けるため、一度掲載したものは以後省略してある）が、ルビは省略した。とりあげる際には註記し、広告文のあとに掲載した。雑誌・新聞・書籍は『』で示してある。また、発兌元・発行所の記載があるものについてはつとめて記録した（記載がないもの、売捌所はここに含めない）。なお、人名、書名などで現行の表し方と異なるものもみられるが〔例〕柴四郎『佳人の奇遇』、そのまま記録してある。

- 一、説明は（*）で表した。
- 一、明治二十五年五月創刊の『中央學術雜誌』は、明治二十四年三月創刊の『同攻会雜誌』の継続誌であるという考えから、ここではとりあげなかつた。
- 一、本誌創刊号掲載の「例言」「発行所」「持主兼印刷人」「編輯人」は左記のとおり。

例言

- 一 同攻会ハ東京専門学校講師得業生学生其他東京専門学校ニ縁故アル法理文三学篤志ノ人々ノ会合ニシテ本誌ハ以上諸氏研磨ノ論説及ヒ記事等ヲ掲載スル者ナリ
 - 一 本誌二十部以上ヲ購求スル地方ニ於テ研究会ヲ組織シ本会々員ノ臨講ヲ請フ者アラハ其請求ニ応スヘシ
 - 一 本誌掲載ノ論説ニ関シテハ質問ヲ辞セサル可シ
 - 一 本誌ハ毎月二回之ヲ刊行シ十日二十五日ヲ以テ発行ノ定日トナス
- 発行所・団々社支店 持主兼印刷人・高田早苗 編輯人・檜崎俊夫

明治十八年三月十日―明治二十年十一月三十日（全五十九冊）

第一号 (明治十八年三月十日刊行)

論説

李氏地代論 文学士 天野 為之 一七五

民間法典 法学士 磯部 醇 五九

利学入門 東洋学人 小野 梓稿 九七

仮作物語の変遷 文学士 坪内 雄蔵 一〇六

日本族制論 宗方 文三 一六〇

万国仲裁協会ヲ評ス 檜崎 俊夫 一七〇

翻訳

經濟上快樂痛苦の尺度を論ず せぼん氏經濟論 二五〇

前橋孝義訳

外交機關論 すぺんさあ、うあるばうる著 二五五

文学士 高田早苗訳

雑録

各国判事登用法の比較 (宗方文三報) 二九〇

日耳曼法庭の組織 (三余生報) 三〇〇

記事

同政会沿革

三十一、三十二

(広告) ロルド笠頓翁著・文学士坪内雄蔵訳 『閣議概世』

士伝 前編 (既刻) ・後編 (近刻) 『発兌元・晚青堂』(註

1) / 東京専門学校講師・文学博士高田早苗講述 『英国

政典』『発兌元・晚青堂』(註2) / 『団々珍聞』第四百八十

二号目次 / 會員法学士磯部醇閣・會員代言人岸小三郎訳

『新編 英国證據法』(註3) / 総生寛編輯 『日本古今 圭玷新評』

『文氏 英国證據法』(註3) / 総生寛編輯 『日本古今 圭玷新評』

第二十集 / 蒲生重章先生著 『近世偉人伝』第一、七編。

(註1) 欧州中古ノ時代ニ当リテ伊太利ノ貴族虐制ヲ擅ニス莉延自ナル

者アリ孤憤慷慨夙ニ回天ノ志アリ大ニ民党ヲ説キテ自由ノ氣ヲ鼓舞

シ一挙シテ共和ノ大政ヲ挽回ス其事ハ十四世紀ノ史ニ録シテ已ニ人

口ニ膾炙ス笠頓翁空前ノ筆才ヲ弄シテ更ニ絶後ノ脚色ヲ加ヘ一篇ノ

好裨史を綴ル通篇悲壯慷慨読者ヲシテ覺エズ絶快ト叫バシム四方ノ

君子請フ一読シテ高評ヲ賜ヘ

(註2) 本書は高田先生カ東京専門学校生諸氏に講授セラレタルモノニ

シテ編ヲ中央政治地方政治及貧民救済ノ三段ニ分チ英国ノ行政制度

ヲ論述セシニ漏ス所ナキ良書ナリ惟フニ世間独仏ノ行政ヲ論シタル

書尠キニアラサルモ英国行政ノ制度ヲ詳論シタルモノハコノ書ニ他

ニアル可ラス江湖有志ノ諸彦希クハ一本ヲ購得シテ立憲政治ノ行政

證據法ノ原則要領ヲ拔載シ附スルニ例解ヲ以テシタルモノナリ原書
ノ法律世界ニ非常ナル利益ヲ与ヘシハ欧米諸大学ハ勿論東京大学ノ
教科用書タルヲ以テ証シ得可シ

第二号 (明治十八年三月二十五日刊行)

論 說

歴史ノ効用

島田 三郎 一六

李氏地代論 (前号ノ続き)

文学士 天野 為之 六九

支那社会論

侯野 時中 九十一

利学入門第二章

東洋学人 小野 梓 一〇三

仮作物語の変遷 (前号ノ続き)

文学士 坪内 雄蔵 一〇六

英國帝王考

文学士 高田 早苗 一〇七

翻 訳

經濟上快樂痛苦ノ尺度を論ず (接前号)

せぼん氏經濟論 二一〇

前橋孝義訳

外交機關論

すぺんさあ、わるぱうる著 二二〇

文学士 高田早苗訳

孺碧亞蘇該撤伝

法学士 山田喜之助 二七〇

記 事

羅馬字会趣意書

二九〇

(広 告)

総生寛編輯 『日本古今 圭玷新評』 第二十四集 / 『東

京与論新誌』 第九十三号目次 / 大内青巒編輯 『哲学叢

誌』 発行所・鴻盟社 (註) / 『蒲生重章先生著』 近世偉人

伝 (第二編既発) / 『農業雜誌』 第二百二十号目次 / 従

五位子爵岡部長職公題字・日本鉄道会社幹事榊原浩逸君

著 『欧米鉄道經濟論』 発行書林・団々社支店 / 法学士

山田喜之助先生著 『再販英國私犯法』 発行所・九春堂・

東洋書店・丸善書店 (註)

〔註〕 右は論叢史談雜記詞叢問答の五科を分ち専ら古來釈門哲学に秀
てたる高僧名士の論說談話伝記詩歌等を編輯し且つ往々編者及び現
今有名なる僧侶学士の論評を加へたる物なれば東洋の哲学及び宗教
乃趣を知らんと欲する人は必読すべき雜誌なり○第一号に限り見本
の爲に必要せらるゝ人は郵便切手四錢送附せらるれば速に一冊郵通
すべし

〔註〕 英國私犯法ハ各国法律中独善独美ノ普レヲ博シタル者ニシテ苟
モ民事損害要償ノ法理ヲ攻究セントスル者ハ必読スベキ良典ナリ

第三号 (明治十八年四月十日刊行)

論 說

累進税比例税ノ得失ヲ論ス 文学士 高田 早苗 一七二
法学指鍼ヲ説キ成典編輯ノ事ニ及ブ 岸 小三郎 一七六
処世ノ心得 宗方 文三 一六九

支那社会論 (承前)

俣野 時中 二二五

利学入門第三章

東洋学人 小野 梓 二二五

弁猶兵

小野 梓 二五五

翻 訳

英国王室ノ特例及特権ヲ論ス

スペインサー、ウワルポール氏著 二五九

板屋確太郎訳

記 事

同政会大会

三三一

中央学術演説会

三三二

同政会々員氏名表

三三三

(広 告) 東京専門学校講師田原栄先生著述 『和訳英文指

針 (註)

〔註〕本邦未タ邦語ヲ以テ充分ニ英文典ヲ説キ明シタルモノナシ是レ
初学生ノ尤不便トスル処ナリ田原先生此ニ見ル所アリ此ノ善ヲナス
即チ本書ハ邦語ヲ以テ懇到ニ英文典ノ要旨ヲ説キ明カシ加フルニ英
文ヲ交ヘテ之カ適例ヲ示シ附スルニ分類解剖点句ノ三法を以テシ兼
テ作文学ノ要ヲ説キ一説シテ英文ノ何タルヲ解シ得ヘキノ珍玉ニシ
テ英書ヲ学バントスルモノ、座右ノ欠クベラサル良書ナリ

第四号 (明治十八年四月二十五日刊行)

論 說

経済学トハ何ソヤ

文学士 天野 為之一八

英国帝王学 (接前々号)

文学士 高田 早苗 八十二

万国仲裁協会ヲ評ス (接第一号)

榎崎 俊夫 一四

実物学ヲ論ス

文学士 高田 早苗 一四三

翻 訳

外交機関論 (接前々号)

すぺんさあ、わるぼうる著 二二二

文学士 高田早苗訳

雜 録

地球察相学浅积 (*小藤文次郎著述の抄録)

二七三

記事

静岡研究会並ニ審法館ノ設立

三三

静岡研究会概則

三三〇三三

憲法館趣意書

三三〇三三

前橋孝義氏送別会

三三一

同攻会々員氏名表

三三〇三三

(広 告) 山田司法卿題字・長与衛生局長序・天野皎訳『英

国衛生條例』(註)ノ『東京経済雑誌』第二百六十一号

目次ノ東京専門学校講師田原栄先生著述『文典』英文指和訳

針

(註)ノ右ハ大阪府知事ノ英国龍動府ヨリ取寄セラレタル原書ヲ請ヒ受

ケ翻訳出版シタル英国現行ノ衛生條例ニシテ衛生課警察署郡区役所

戸長役場地方衛生会員開業医師代官町村衛生委員大日本私立衛生

会員等ハ勿論苟モ衛生ノ事ニ注意アル諸彦ノ必読スヘキ良書ニ有之

候間陸續講読アラントラゾ

第五号 (明治十八年五月十日刊行)

論説

教育論

小野 梓 一五

仮作物語の変遷 (接第二号)

文学士 坪内 雄蔵 五十一

与論記者ニ答フ

岸 小三郎 七〇

民間法典 (接第一号)

法学士 磯部 醇 七十八

一 翻訳

英国王室ノ特例及議院ノ特權ヲ論ス (接前々号)

スペンサー、ワルポール著 大 七十一

板屋確太郎訳

雑 録

地球察相学浅訳 (接前号)

二二〇二四

羅馬字にて日本語の書き方

二二四〇三

記 事

野村得三郎君略伝

三三〇三一

東京専門学校春期親睦会

三三一

同攻会々員氏名表

三三二

(広 告) 『団々珍聞』第四百九十一号目次ノ総生寛編輯

『日本古今名家詩文』圭玷新評』第二十六集目次ノ『哲学叢誌』第四

号 [発行所・鴻盟社]ノ『驚奇支那風俗一斑』ノ文学士

坪内雄蔵先生訳『開巻慨世士伝』前編／『妖怪府』／從

四位前田利邨公題字・蒲生俊君纂著『世界未来記』(註1)

／高田早苗講述『英国政典』／蒲生重章先生著『近世偉

人伝』義字集第二篇二冊既発／文学士坪内雄蔵先生著『小

説神髓』全二卷「発兌元・東京稗史出版社」(註2)／山

田司法卿題字・長与衛生局長序・天野皎訳『英国衛生條

例』／『東洋学藝雜誌』第四十三号目次／『東京与論新

誌』第百九十七号目次

〈註1〉此書ハ哲理推察ノ学則ニ訴ヘ大塊上ニ蠢動スル人類世界の後來

ニ遷転進動シテ大ニ社会ノ衆相ヲ变化スルノ有様ヲ記述シタル一大

奇書ナリ此書ヲ読マサル人トハ共ニ明日ノ事ヲモ相談スルノ甲斐ナ

キナリ

〈註2〉文学士坪内先生多年東西の稗史を繙き細嚼熟味して深く神髓を

得られしかば竟に一部の書をもつて小説神髓とは名つけられぬ一

たひ此書を閲する時には小説の美術たる所以小説の進化せし所以小

説の演劇にまされる所以小説の主眼の所在はさらなり小説の法則小

説の文体脚色の鹽梅趣向の結構灼熱として知らるゝのミカハ東西小

説の異なる理由もまたおのづから明かなるべし加之毎題毎章我小説

より例を挙げてきはめて仔細に説なし婦女幼童にも解し得べくいと

供へて共に熟読含味ありて我物語の改良進歩を前途に企てたまへと

いふ

(*本号より「本誌定価」持主兼印刷所「編輯人」発行所「大売捌所」

の記載が表紙裏下段に変わる。)

第六号 (明治十八年五月二十五日刊行)

論 説

利学入門第四章 小野 梓著 一〇四

小説神髓拾遺 文学士 坪内 雄蔵 四七

支那社会論 (接第三号) 俣野 時中 七九

報酬漸減ノ法則トハ何ソヤ 文学士 天野 為之 九十三

刑罰論 宗方 文三 一七六

生類ノ始原ヲ論ス 市島 謙吉 一六二

雑 録 地球察相学浅釈 (接前号) 二五三

文学士高田君二質ス 東京大学文学部哲学科 西洋天狗寄送 二六二

記事 同公会大演説会 三三

同公会大演説会 三三

同改会 廣告

三十二

(広告) 『団々珍聞』 第四百九十三号目次 / 総生寛編輯

『日本古今』 圭玷新評 第二十七・二十八集目次 / 『団々珍聞』

改良の廣告 (註1) / 仏国ジュールスベルン原著・日本大平三次重訳 『海底旅行』 / 『螢雪学庭志叢』 第八十号 (四月二十五日既発) / 坪内雄藏先生訳

『開巻慨世士伝』 / 米国亞勃的氏原著・日本秋庭濱太郎訳

『外伝』 蘭秀美談 / 『註2』 / 古道人総生寛編輯先生著 『両京市誌』 (註3) / 清齒三方 (*歯磨きの宣伝) / 真木幹之助戯著 『狂詩語碎金』 (註4) / 総生寛著 『二笑東京市史』 (註5)

『註1』 弊社団々珍聞紙面改良の義は曩に洒蛙説上に於て予め口上申上置きたる通り爾來その都合により取り懸り外題の脚色幕数の如何俳優の役割り舞台道具立ての備へ付けでハない紙面数ヶ條の改良の準備も巴に整頓たれば恰好来る七月四日ハ第五百一號の発兌なるを以て当日を改良の初日となし紙数を増し欄を殖し記事を多くし就中吾団珍の骨髄たる狂画を石板画に刊出し西洋ボンチ新聞も那処退け処か十層倍も面白き好体裁を貴覽に供せんとす希くは旧に倍し看客諸君の愛読あらん事を

但し第五百号の祝詞を寄贈の諸君は来る六月二十日迄に弊社に届くやう相成り度願ひ升

〔註2〕 那翁ノ「世人皆知レリ独リ之カ配タル徐世實ノ」ニ至リテハ知

ル者稀レナリ其婦徳ノ盛ンナル那翁即位ノ後曾テ曰ク予若シ徐世實ノ内助ヲ得ザリセバ斯ノ如キ地位ニ達スル「能ハザリシナル可シト

此一事を以テ徐世實ノ人トナリヲ窺ヒ知ルニ足ル可シ本書ハ勉メテ文章ヲ平易ニシ徐世實ガ一代ヲ詳細ニシ世ノ男女子ヲシテ配ヲ撰フノ苟モス可ラザルヲ諷シ且ツ不世出ノ偉業ヲ知ラシムルニアレハ請フ四方ノ諸君一読シテ此言ノ嘘タラサルヲ実試アラント

〔註3〕 右ハ漢文ヲ以テ。山水。神祠。寺院。産物。四時遊觀ノ地及ヒ演劇角力。擊劍。仏道。神史。困棋。絵画等ノ事ヲ記シ。其間ニ。先生ノ論文有り。詩賦有り。行文醇雅秀雋ニシテ。小山春山。三島中洲。小野湖山。蒲生襲亭。龜谷省軒。谷鐵臣。江馬天江。清人張

磁叻。朝鮮人李樹廷氏及ヒ。十六人大家ノ評語有テ。字法。句法。章法。篇法。共ニ其妙処ヲ明示セル。我邦ノ市誌ニ於テ。今古未曾有ノ奇書ナリ。

〔註4〕 右ハ詩語碎金ノ例ニ倣ヒ遍ク世俗ノ熟語ヲ蒐集シ傍ニ平仄ノ点ヲ附シ四季天文地理官吏華族書生芸娼妓学校演劇汽車火災等數十題ヲ設ケ一題毎ニ二例三四首ヲ掲ケ能ク了解シ易ク懇ニ教ヘ導キタルモノナレハ一説以テ真面目ナラヌ月落烏啼雲耶山耶ノ仮声ヲ学ヒ得自由自在ニ心意氣ヲ述べ狂詩家ノ為メニハ鬼ニ金棒トモ謂ツヘキ好冊子ナリ

〔註5〕 右ハ東京今日ノ事情ヲ漢文ヲ以テ記シ其間議論ヲ挿ミ感慨ヲ含ミ一ハ以テ笑フ可ク一ハ以テ歎スベク其文字皆古雅爾潔実ニ近世多ク見サルノ奇作ナリ

第七号 (明治十八年六月十日刊行)

論 說

哲学一班（*演說筆記） 文学士 天野 為之 一〇四

自殺論 俣野 時中 七四〇八

教育ハ最良ノ防悪法ナルヲ論ス 市島謙吉識 六〇五五

雜 録

読教育論 西洋学人寄送 二五〇三二

記 事

横浜講学会 三〇三三二

同攻会々員氏名表 三二一

同攻会々員氏名表（前号ノ続キ） 三二一

（広 告） 『螢雪学庭志叢』第八十号（四月二十五日既発）

／坪内雄蔵先生訳『開卷慨世士伝』／米国亜勃的氏原著・

日本秋庭濱太郎訳『外部論 蘭秀美談』／古道入総生寛先生

著『両京市誌』／清齒三方（*齒磨きの宣伝）／真木幹

之助戲著『狂詩語碎金』／獸医学士村崎常治訳述『家畜

病理論』／本誌諸国売捌所／『団々珍聞』第四百九十五

号（六月六日既発）／『羅馬字にて日本語の書き方』（仮

名交り文のもの・羅馬字文のもの）／『羅馬字雑誌』／

『団々珍聞』改良の広告

第八号（明治十八年六月二十五日刊行）

論 說

教育ハ最良ノ防悪法ナルヲ論ス（接前号）

市島 謙吉 一〇六

支那社会論（接前々号）

俣野 時中 六八

法律進化論一班

岸 小三郎 八十一

哲学一班（前講ノ続キ）

文学士天野 為之 一〇七

雜 録

介雜誌与西洋学人書

東洋学人梓手録 七〇九

宗教論

西洋天狗寄送 九〇八

記事

板屋確太郎君及ヒ申載永君送別会

二八〇三九

同攻会々員氏名表（前号ノ続キ）

二九〇三二

（広 告） 『団々珍聞』第四百九十八号目次／総生寛編輯

『日本新文』圭祐新評』第二十九集目次／『東京与論新誌』

第二百号目次／『士官必携』／『曲亭馬琴序文集』／『劬

』中央學術雜誌』細目

善諭道伝』／『伊蘇普物語』／『男女之義務』／『東洋
 傍聴筆記』／『日本古今』主玷新評 第一合本(第一)二十
 集「発売所・団々社」／從四位前田利邇公題字・蒲生俊
 君纂著『世界未來記』／高田早苗講述『英國政典』／仏
 国ジュールスベルン原著・日本大平三次重訳『海底旅
 行』／文学士坪内雄蔵先生訳『悲憤慷慨世士伝』／『妖怪
 府』／総生寛著『笑東京市史』／野村文夫閱・山賀新
 太郎・辻元篤次郎同著『東京蒙求』(註1)／小舟小永井
 先生講義『論語講義』第三卷合本「出版書肆・法木徳兵
 衛 発売書林・団々社」(註2)／広告料定価

〈註1〉右ハ李翰ノ蒙求ニ倣ヒ漢文ヲ以テ東洋ト西洋ノ嘉言善行ヲ対比
 シ標題ニ韻ヲ押シ暗誦ニ便ナラシメタレハ就中小学生徒ニハ必読ノ
 好書ナリ

〈註2〉右ハ小舟先生ノ設立スル濠西精舎輪講ノ席ニ於テ講述セララル、
 フ筆記シ更ニ先生ノ校閲ヲ請フテ上梓スル者ナレバ四方ノ学士幸ニ
 購求アレ

第九号 (明治十八年七月十日刊行)

論 說

哲学一班 (前講の続キ) 文学士 天野 為之 一七
 教育ハ最良ノ防悪法ナルヲ論ス (接前号) 市島 謙吉 一七

翻 訳

英国王室ノ特例及議院ノ特権ヲ論ス (接五号)
 スペンサー、ワルポール著 十九、二十

秋広淡一郎訳

雜 録

匈國 班烈多物語 文学士 坪内 雄蔵 二十四、二十七

記 事

東京専門学校規則要領 二十七、三十一

同公会々員氏名表 三十一、三十二

(広 告) 東京専門学校広告／『団々珍聞』第五百号目次

／総生寛編輯『日本古今』主玷新評 第三十集目次／春のや

臈先生戯著『二説』当世書生氣質 (二号既出) 全十七冊

毎月三回 (註1)／正五位永山盛輝公題辭・蒲生重章先

生序文・大橋佐平君編纂『近世北越名士伝』(発売処・大橋

書房) (註2)／『東洋学藝雜誌』第四十五号目次／『東

京と論新誌』第二百一号目次／夜雲庵金羅宗匠評・遠雲庵主人編纂『親睦明治発句集』〈註3〉／『狸の夜嘶』／『羅馬字雜誌』／『日本語の書き方』／『羅馬字早学』／『學術講習會雜誌』／『東洋傍聴筆記新誌』／『譚海』第二編／仏国ジュールスベルン原著・日本大平三次重訳『海底旅行』／文学士坪内雄藏先生記『悲憤慨世士伝』／高田早苗講述『英国政典』

〈註1〉サア御ろうじまし／く是は此度おぼろ先生が新案の好稗史趣向ハ馬琴京伝をふんまへ文章は三馬春水を気取りありとあらゆる書生の社界の情態をバおもしろおかしく理屈ッぽく写し出したる鼻草紙でござる子弟を游学さする地方の父兄殊に一本を購ひ求めて子弟を規誡するに鑑となしたまへや

〈註2〉右ハ去ル明治十四年二稿ヲ起シ本年五月中旬ヲ以テ漸ク竣功セシモノニシテ其ノ事実ノ精確ナルハ論ナク文章モ亦平易ナリト雖モ彼ノ剛柔体ヲ得ザルモノ、比ニアラズ日ツ河井、本間、河本、村山、長谷川諸君ノ伝記中ニハ総テ維新以前国家大變革ノ因ル其ノ事歴ヲ叙シ殊ニ河井君ノ伝ハ詳細緻密殆ンド北越戦争記ト謂フモ誣言ニアラズ長岡城再度ノ攻取其ノ戦争ノ劇シキ状況等描シテ目前ニアルカ如シ志士、医、画家、繙流、商家、工事家、官吏等英邁俊傑ノ士ノ履歴ヲ知ルノ傍ラ国家變革ノ由来ヲ悟ルノ良書ナリ今ヤ刻成リ広ク之レヲ販売セントス江湖ノ諸君伏シテ願ハクバ陸續愛顧ヲ賜ヘト云爾

『中央學術雜誌』細目

〈註3〉夫俳諧の徳たるや徒に月花を翫ぶ物に非ず苟も教導の一部分にして政府も之を許し給ふ事ハ諸君の知らるゝ処也然るに近來世の狹児等風流を名として種々の企を設け秀逸木の旨を披露し漸く巻を開くに至るも遂に出版の挙なく入花は彼等の所得となるの類ひ又勤しとせず不風流の極と謂ふべし只惜しむらくハ諸君の高点を得られし玉吟を一朝水泡に帰するは遺憾の至り也依て今般有志者と謀り海内雅士の持句を蒐集し東京有名の各宗匠に批評を乞はんとす先第一會を夜雲庵宗匠に託しつき／＼に名を掲ぐべし其仕法ハ一組を三句と定め左の点料を申請け其内必ず一句を出版し之を美本に仕立無代価にて送附す且海内一般の俳仙親睦交際の為俳名別号御住所御通称を詳に記し附録として呈さんとす乞ふ沢山御投吟あらん事を

第十号 (明治十八年七月二十五日刊行)

論説

英語ヲ以テ日本ノ邦語ト為ス可キノ説 (*演説)

文学士 高田 早苗 一八

競争論 檜崎 俊夫 八十

財産ノ安固 文学士 天野 為之 十三

雜錄

月世界ノ人類ハ其身ノ丈ケ我カ富士山ノ倍

アリト云フ新シキ大發明 浜村迂夫 二十 十三

記事

横浜講学会経済演説会

二五〇、二五二

中央学術演説会

二五四

翻訳

英国王室ノ特例及議院ノ特權ヲ論ス(接前号)

スペンサーワルポール著 二四四、二四八

秋広淡一郎訳

同攻会々員氏名表

二五〇、二五二

(広告) 東京専門学校廣告ノ『団々珍聞』第五百二号目

次ノ総生寛編輯『『日本古今名家語文』圭玷新評』第三十一集目次ノ春

のや隴先生戯著『『二説』当世書生氣質』(二号既出) 全十七

冊 毎月三回)ノ『狸の夜嘯』ノ『羅馬字雜誌』ノ『日

本語の書き方』ノ『羅馬字早学』ノ『学術講習会雜誌』

ノ『東洋傍聴筆記新誌』ノ『譚海』第二編ノ『東京経済

雜誌』第二百七十四号目次ノ『『漢字』幼学新誌』(第十四号

七月八日発売)ノ『『字小』作文新報』[本局・幼学社]ノ『詩

学新誌』[本局・幼学社]ノ『団々珍聞』定価変更・前金

割合の公広告ノ狂画の広告

第十一号(明治十八年八月十日刊行)

論説

宗教論(続稿)

西洋天狗寄送 一〇三

無神迂夫批判

(*西洋天狗の論の間に「迂夫ノ批評ヲ挿ミタル者ナリ」とある)

何ヲカ真理ト謂フ

市島 謙吉 二七

雑録

東京専門学校得業証書授与演説

文学士 天野 為之 七七、八一

班烈多物語

文学士 坪内雄蔵戯訳 二五、二五

記事

東京専門学校得業証書授与式

二五三、二五五

宇都宮学術演説会

三

同攻会々員氏名表

三三、三三

(広告) 東京専門学校廣告ノ『団々珍聞』第五百四号目

次ノインキ・齒磨きの廣告ノ『『女学雜誌』』(第一号既発)

『発行所・万春堂』ノ春のや隴先生戯著『『三説』当世書生

氣質』(三号既出) 全十七冊 毎月三回 / バルン氏
『NEW NATIONAL READER』(第一〜五号) / 『英語通
飲酒効害論』 / 彈舜平編纂 『新醬油稅則類纂』 / 『酒造桶
容量早算法』 / 『團々珍聞』 定價變更・前金割合の広
告 / 狂画の広告

第十二号 (明治十八年八月二十五日刊行)

論 說

地科稅論

文学士 高田 早苗 一〇

宗教論 (統稿)

西洋天狗寄送 十九

雜 錄

東髮会々員ノ御婦人方ニ忠告ス

女權迂夫 十九〇

人員統計論 (仏国ブロック氏統計学抄訳)

二十〇

記 事

第二回宇都宮學術演說会並攻学会趣意書

二十九

東京専門学校記事

三十

同攻会々員氏名表

三十〇

(廣告) 生徒募集廣告 (東京専門学校) / 東京専門学校

廣告 / 『團々珍聞』 第五百六号目次 / 『日本古今名義語文圭玷新評』

第一合本 (第一〜二十集) 『発売所・團々社』 / 元老院

議官箕作麟祥先生序・島田三郎校訂・市川義夫纂訳

『和英和字彙大全』 全部 (註) / 春のや隴先生戯著 『三歌当

世書生氣質』 (四号既出) 全十七冊 毎月三回 / バルン

氏 『NEW NATIONAL READER』 (第一〜五号) /

『教学論集』 第二十一編 『発行所・無外書房』 / 『教学

論集』 (第一〜二十編の二十冊) 『発行所・無外書房』 / 『東

洋学藝雜誌』 合本予約廣告 『東洋学藝社』 / 『総生寛編輯

『日本詩文圭玷新評』 第三十三集 / 『尾崎行雄著』 『地租改

正稅私議』 『発兌所・報知社』 / 『狸の夜嘯』 (註) / 『海軍々

医少監矢野業徹閣・海軍々医補富松郁三郎著』 『飲酒

効害論』

〈註1〉 過般横浜製紙分社ヨリ予約出版ノ儀廣告ニ相成候テヨリ日夜各
地ヨリ御注文夥シクメ期日前既二千二百部余ノ申込有之其後尚続々
ト御注文有之趣ニテ五百部ノ増摺モ之アリ今般已ニ第二回分モ配冊
ニ相成程ノ盛況ノ処尚弊社ニ於テモ予約ノ取次致シ候ニ付御望ノ御
方ハ成丈至急御申越シ被下度候也

〈註2〉 此書は二千年も年へたる古狸の老僧に容を變へ人間にあらはれ

出で神道を説きまた仏法にうつり千変万化おのゝその教旨の眼目とする所をつまみとりて歴史に照し人の耳に入りやすきやう面白く口車に載せて説明したるものなればおのづから古人の演説を今眼の前に聴くこゝちせりいはゆるふる狸老練学者の滑稽に成りたるものにて当時に類なき読本なれハ諸君一読して其珍奇を知り玉へかし

第十三号 (明治十八年九月十日刊行)

論 説

圧力之説

田原 栄一五

宗教論 (続稿)

西洋天狗寄送 五九

成典編纂論

法学得業生 黒川 実司 九七五

翻 訳

外交機関論 (接第四号)

すぺんさあ、うわるぼうる著 五七九

法学得業生 高山圭三訳

西洋天狗カ実物学論ノ質疑ニ答ヘ

併セテ耶蘇教ヲ論ス

半峯居士 九七三

(広 告)

生徒募集広告 (東京専門学校) / 東京専門学校

広告 / 延着者試験広告 (東京専門学校) / 『団々珍聞』

第五百八号目次 / 総生寛編輯 『日本古今 圭玷新評』 第三十

四集目次・第一合本「発売所・団々社」 / 野村文夫閣・

山賀新太郎・辻本篤次郎同著『東西蒙求』「発売所・団々

社」 / バルン氏『NEW NATIONAL READER』(第

一〜五号) / 元老院議官箕作麟祥先生序・島田三郎校

訂・市川義夫纂訳『和英和字彙大全』 / 『英国衛生條例』

／春のや朧先生戯著『三説当世書生氣質』(六号既出 全

十七冊 毎月三回) / 『東京与論新誌』第二百七号目次

／万字堂本店・支店広告 / 東京府知事芳川頭正君題・同

深川区長堀田正養君閣・府庁学務課員斉藤茂実君輯

『東京府学事要令』・同統編「発売書林・万字堂本店」 /

近藤缺先生撰『護和修身格言集』

第十四号 (明治十八年九月二十五日刊行)

論 説

政治学ト哲学トノ関係並ニ政治ノ目的

文学士 天野為之講義 一八

武部冉之筆記

監獄要論 第一

市島 謙吉 八六

成典編纂論 (承前)

法学得業生 黒川 実司 六六

雜 録

西洋天狗カ実物学論ノ質疑ニ答ヘ

併セテ耶蘇教ヲ論ス (接前号) 半峯居士 二二五

記 事

東京専門学校学術演説会

二四〇

田中甲子次郎君

二五

久保田熙納君

二五

諸学校記事

二五〇

同政会々員氏名表

二八〇

(広 告) 明治女学校生徒募集ノ進文学社広告ノ東京専門

学校講師田原栄先生著述『和訳英文指針』ノ『日本古今名家詩文珍聞』

第五百十一号目次ノ総生寛編輯『名家詩文古今圭玷新評』第一

合本ノ野村文夫関・山賀新太郎・辻本篤次郎同著『東西

蒙求』ノ『東京与論新誌』第二百九号ノ文学士坪内雄蔵

先生著『小説神髓』第一卷ノバルン氏『NEW

NATIONAL READER』(第一〜五号)ノ元老院議官

箕作麟祥先生序・島田三郎校訂・市川義夫纂訳『英和英字

彙大全』ノ『英国衛生條例』ノ春のや朧先生戯著『三載

当世書生氣質』(六号既出 全十七冊 毎月三回)ノ『東

京与論新誌』第二百八号目次ノ『東洋学藝雜誌』第四十

七号目次ノ『中央学術雜誌』返却希望(一、四、五号)

広告ノ『教学論集』二十二編・第一〜二十集合本〔発行

所・無外書房〕

第十五号 (明治十八年十月十日刊行)

論 説

耶蘇教東漸ノ利益ヲ説テ仏徒ニ望ム所アリ

文学士 高田 早苗 一〇

女子徴兵論

政学得業生 稗田 三平 九二

監獄要論 第二

市島 謙吉 一〇三

属国政治論

文学士 天野為之講義 二二〇

武部冉之筆記

翻 訳

保護政策ノ全勝

愛農生 二二五

記事

茨木宗太郎小泉清志両君ノ送別会

三三三

講学会第二經濟演説会

三三三三四

同公会記事 (*北村門太郎、鈴木茂三郎入会)

三三四

(広 告) 東京専門学校講師田原栄先生著述 『『櫻淵』英文指

針』/田口卯吉先生著 『日本開化之性質』/渡邊遂編輯

『『英和珍独案内』/文学士坪内雄蔵先生著 『小説神髓』第

三卷/バルン氏『NEW NATIONAL READER』(第

一〜五号)/『英国衛生條例』/春のや朧先生戯著 『『二載

当世書生氣質』(八号既出 全十七冊 毎月三回)

第十六号 (明治十八年十月二十五日刊行)

論 説

監獄要論 第三

市島 謙吉 一九

属国政治論 (続稿)

文学士 天野為之講演 九〇二

武部冉之筆記

地料税論 (続稿)

文学士 高田 早苗 二二〇三五

翻 訳

外交機関論 (接第十三号)

すぺんさあ、うわるぼうる著 二五〇二九

法学得業生 高山圭三訳

記 事

東京専門学校秋季大運動会

二九

印牧順作君

三

同公会々員氏名表

三三三三

(広 告) 『『文典教学論集』第二十三編「発行所・無外書房」

師田原栄先生著述 『『英和珍英文指針』/渡邊遂編輯 『『英和珍

案内』/バルン氏『NEW NATIONAL READER』(第

一〜五号)/『英国衛生條例』/文学士坪内雄蔵先生著

『小説神髓』第三卷/木村熊二君序・田口卯吉先生著『日

本開化之性質』(註一)/改名広告(上田小市・頓々猫史)

『『商業商家手形之心得』/英国ポーン氏編纂・『諸道經濟雜誌社

訳 『『泰政事類典』(註二)/古道人総生寛著 『『諸道大觀經』

『『泰為換雅記』/弊社諸雜誌各地売捌所/『『諸道団々珍聞』

大取次所

雜 錄

西哲叢話 演説家に関する話

半峯居士 二七五三二

記 事

教育講談会

三三二

山田一郎君

三三一

森田文蔵君

三三一

(*報知社員である氏が矢野文雄に代わり、英国に赴任)

(広 告) 『団々珍聞』第五百十七号目次 / 『圭玷新評』

第三十八集目次 / 木村熊二君序・田口卯吉著『日本開化

之性質』 / 文学士坪内雄蔵先生著『小説神髓』第三卷 /

ニューナショナル『リードル』第二独学自在・第三直訳

/ 元老院議官正四位算作麟祥君序・島田三郎校訂・市川義

夫纂訳『英和和英辞林』 / 英和之部 / 君山小栗栖香平君校

訂・傍木哲二郎纂訳『新撰和訳英辞林』 / 英国博士レツ

グ氏訳『英和四書』英文・和文 / 岡木監輔先生著『万国

通典』要言類纂 / 柴四郎君著『佳人の奇遇』初編(全

二冊) / 『海外名哲土鑑』 / 松本孝輔著『英和通信』 /

石田隅次郎著『商人英語日用本』 / 富田鉄之助『銀行小

〔註1〕此書ハ日本の衣服飲食家屋及文学の有様今日の如くにては連も
いけぬ故に大本より改めねばならぬと云ふ事を述へたる書也絵画を
入れて右古来風俗の沿革を示し且文章も平易なれば瞭解し易し請ふ
請求あらんことを

〔註2〕右ハ原名「ポリチカル、サイクロペヂア」ト題シ行政、経済、
財務、商業、法律等ヨリ交際上ノ諸項ニ至ル迄政治ノ事項殆ド網羅
シ遺ス所ナク政治域内ノ諸科ニ通曉スルニ於テハ則チ復之ニ若クモ
ノナキ珍書也曩日予約法ヲ以テ一千部限り印刷致候処残本欠乏ニ付
此際速ニ増刊シ左ノ割合ヲ以テ本年十二月迄ニ予約発売仕候請フ江
湖ノ諸彦御加入アランヲ

第十七号 (明治十八年十一月十日刊行)

論 説

監獄要論 第四

市島 謙吉 一七

女子徴兵論(続稿)

政学得業生 稗田 三平 七十一

翻 訳

大憲章発布ノ顛末及ヒ其解釈

タツウキル、ラングミード著 十二三

文学士 高田早苗口訳

瀬川光行筆記

保護政策ノ全勝(接第十五号)

愛農生訳 二五三十七

言 / 『東京与論新誌』 第二百十三号目次 / 『東洋學藝雜誌』 合本予約広告 / マルチ子散 (*胃薬、発売本舗・岸田吟香)

第十八号 (明治十八年十一月二十五日刊行)

論説

監獄要論 第四 (承前号)

市島 謙吉 一〇四

人生ノ目的ヲ論ス

遠藤愛造寄送 一〇五

翻訳

外交機関論 (下編)

すぺんさあ、わるぼうる著 二二〇

大憲章発布ノ顛末及ヒ其解釈 (接前号)

法学得業生 高田圭三訳

タツウエル、ラングミード著 二八〇

文学士 高田早苗訳

瀬川光行筆記

記事

藤枝学術研究会

三三〇

長崎商業学校開校式

三三三

(広告) 『団々珍聞』 第五百十八号目次 / 『圭玷新評』

第三十九集目次 / 島田三郎校訂・市川義夫纂訳

『和英和字彙大全』

英和之部 / 君山小栗栖香平君校訂・傍木哲二郎

氏纂訳 『翻語和訳英辞林』 / 木村熊二君序・田口卯吉著

『日本開化之性質』 / 文学士坪内雄藏先生著 『小説神髓』

第三卷 / ニューナシヨナル 『リールドル』 第二独学自在・

第三直訳 / 『明治懷中日記』 / 『明治十九年当用日記』 / 『日

本食史』 / 『萬世繫思談』 / 『播磨スコット奇談』 / 『鴛

鴛春秋』

第十九号 (明治十八年十二月十日刊行)

論説

理学者ト宗教ト何レカ神ニ忠ナルヤ 市島 謙吉 一〇九

貧民救助論 (*講演の要領筆記)

政学得業生 小川 義春 九六

翻訳

外交機関論 (接前号) すぺんさあ、わるぼうる著 一六〇

政学得業生 高山圭三訳

保護政策ノ全勝 (接第十七号)

愛農生 二二〇三五

雜 録

虚無僧考

二五五三二

記 事

茨木宗太郎君書翰

三二〇三二

千住教育講演会

三二一

(広 告)

『団々珍聞』第五百二十号目次 / 『圭玷新評』

第四十集目次 / 元老院議官正四位實作麟祥君序・島田三

郎校訂・市川義夫纂訳 『和英和字彙大全』 英和之部 / 君山

小栗栖香平君校訂・傍木哲二郎纂訳 『朝語和訳英辞林』

／尾本國太郎・江口虎之助君共編 『和英いろは字典』^{和英} 合編

伊呂波字彙^和 『和英』 独和辞彙 『掌中独和字彙』 / 柴四郎君著

『佳人の奇遇』 『海外名哲士鑑』 / 松本孝輔君著 『英和通

信』 / 石田隅次郎君著 『商人英語日用本』 / 木村熊二君

序・田口卯吉著 『日本開化之性質』 / 文学士坪内雄蔵先生

著 『小説神髓』 第三卷 / ニューナシヨナル 『リードル』

第二独学自在・第三直訳 / 『明治十九年懷中日記』 / 『明治十九年』 当

用日記 / 『日本食誌』 / 『明治十九年懷中日記』 / 『明治十九年』 當

『中央學術雜誌』 細目

ト奇談 / 『鴛鴦春秋』 / 『西洋骨牌使用法』 〔発兌所・

団々社支店〕^{註1} / 中村正直先生序・經濟雜誌社編輯

『大日本人名辞書』(卷之一 発兌)^{註2}

〔註1〕右ハ西洋にて専ら流行するトランプ骨牌の使用方法来付其術に

功手なる或先生の著述に係りし者により骨牌の種類、配分法、共伍法、

定則、騙術等各使用の種類を挙げて尤精密に述べたれば婦女童蒙も

直に了解すべく本書一たび出れば吾従來の將賽双六は尻尾を捲き歌

留多花牌は素足で逃出すべき珍奇妙絶の書なり殊に歳暮年始の御進

物にハ尤も妙なれば近日発兌を持ち続々御注文あらんことを希ふ

〔註2〕此書ハ兼テ予約ヲ以テ編輯シタル大日本人名辞書ノ卷之一也本

邦ノ帝王皇妃賢將名士勇將硯学高僧詩家歌人画工工匠等ヨリ俳優絃

家俠客名妓等ニ至ルマテ凡ソ名アルノ人皆其詳伝ヲ載ス然リ而シテ

別ニ系図及ヒ年表ヲ附ス系図ノ目ハ則チ皇統、親王家、藤原氏、平氏、

源氏、北條氏、新田氏、足利氏、織田氏、豊臣氏、徳川氏、絵画諸

流、浄瑠璃諸流、長唄俳優、武術諸流、茶流、刀劍師、相撲、儒者、

医者、謡曲也年表ハ則チ年号時代早見表及ヒ同時代人傑年表ナリ仰

モ本邦ノ書大日本史野史元享釈書ノ如キ徒ニ浩濬ニシテ而テ記スル

所少シ此書ハ記スル所多クシテ而シテ之ヲ諸書ニ比スレハ浩濬ナラ

ス從テ価大ニ廉ナリ且ツ牽引ノ便ニ至テハ遙ニ從來ノ諸書ニ超ユ是

レ弊社ノ私ニ心ヲ用フル所也尚ホ予約ヲ許ス請フ加盟アラントラ

第二十号 (明治十八年十二月二十五日刊行)

本誌改良ノ趣旨ヲ述フ

一四

論 說

全国各地ノ同政会員ニ望ノ所アリ

在静岡会員 山田一郎寄送 四十一

言語文学ノ起源

政学得業生 森田勇次郎 士六

雑 録

虚無僧考(接前号)

六十三

記 事

校友会

三十一、三十二

英話会

三十一

(広 告)

『団々珍聞』第五百二十四号目次ノ『圭玷新評』

第四十一集目次ノ元老院議官正四位實作麟祥先生序・島

田三郎校訂・市川義夫纂訳 『英和』字彙大全 英和ノ部・

和英ノ部ノ君山小栗栖香平君校訂・傍木哲二郎纂訳

『新編和訳英辞林』ノ尾本國太郎・江口虎之助君共編『和英

いろは字典』『和英』伊呂波字彙 『訂増』独和辞彙 『掌中独和字

彙』ノ柴四郎君著 佳人之奇遇 『海外名哲士鑑』ノ松本

孝輔君著 『英和通信』ノ石田隅次郎君著 『前編』英語日用

本』ノ印刷局編輯 『明治』十九年『懐中日記』『明治』十九年『当用日記』『日本

食志』『風世繫思談』『石版スコット奇談』ノ『朗廬文鈔』ノ

バルン氏『NEW NATIONAL READER』(第一、二、三、四、五

号)ノニューナショナル『リードル』第二独学自在・第

三直訳ノ木村熊二君序・田口卯吉著 『日本開化之性質』

ノ西洋ランプ(上等・下等)ノ『遊戯骨牌使用法』

第二十一号(明治十九年二月一日刊行)

論 說

経済学ノ必要

文学士 天野 為之一八

死生之理

市島 謙吉 八〇九

在京同政会員に向て更に望む所あり

在静岡会員 山田 一郎 九〇三七

批 評

当世書生氣質の批評

半峯居士 二八〇四

雑 録

稗史家略伝並に批評

春のや主人 四四〇四

記 事

小野梓君卒す

四四〇四九

同攻会支会横浜浜講学会

四九〇〜五二一

浦和学術演説会

五一〇〜五二二

静岡学術演説会

五三三〜五五四

講義録

(*付録としてついでいるため頁数は別で逐号通し)

銀行原理 総論

文学士 天野為之口演 (一)〜(六)

松井從郎筆記

(広告)

『中央学術雑誌』改良広告(註一)／『中央学術

雑誌』第二十二号目次／恭賀新年(秋広淡一郎)／三

田英学校広告／独逸国製造法煙草稟告

〔註一〕曩に各新聞紙に本誌の体裁を改良し材料を精選し批評及び講義

録を加へ去月十五日発兌の旨広告候処印刷上不慮の事差起り遷延致

候段読者各位に對し鳴謝するの言なし因て更に記事の材料を精選し

体裁を優美にし本号より従来の通り毎月十日二十五日を以て発刊致

候間旧に倍する愛読を賜はらんことを望む但し向後ハ三益社に印刷

を依頼し発刊の期日を誤まらざるハ勿論凡て紙面を鮮麗にする様堅

く契約致候に付此段併せて広告す 附言 次号目録に載する如く第

二十二号には美本一冊紙数凡そ四十ページの東洋小野君の詳伝を編

輯し附録として進呈すべし

(*本号から雑誌のサイズがそれまでの四六倍判から菊判にかわる。それまで二段組だったのが一段組にかわった。五号以降表紙裏にあ

つた奥付が裏表紙にもどされる。大売捌所に困々社のほかに三益社が加わる。)

第二十二号(明治十九年二月十日刊行)

論説

學術の本体

文学士 前川亀次郎 一〇一

論学問之独立

市島 謙吉 一〇九

経済学ノ必要(接前号)

文学士 天野 為之 一九〇〜一九四

批評

当世書生氣質の批評

半峯居士 二四〇〜二六

(*山田一郎「国憲汎論批評」次号掲載予告あり)

翻訳

教育に關して政府の責任を論ず

ロルド、マコーレー演説 二八〇〜三六

前橋孝義訳

雜録

為永春水の批評(承前)

春のや主人 三六〇〜四二

記事

故小野梓君追悼法会

四一〇〜四七

『中央学術雑誌』細目

同改会横浜支会の勧告文

四七〇五二

教育に関して政府の責任を論ず (接前号)

講義録

英国 マコーレイ演説 四三〇五三

銀行原理 (接前号)

文学士 天野為之口演 七〇四

松井從郎筆記

記事

(広告) 『教育時論』体裁改良及定価改正ノ公告 / 『中

仏国通信 五三〇五八

央學術雜誌』第二十三号目次 / 生徒募集公告 (実学会

横浜支会討論会 五八〇六〇

英学校) / 独逸国製造法煙草稟告

故小野梓君追悼法会 六〇六六三

(*前号「中央學術雜誌改良広告」に記述のある小野梓の詳伝附録は不

小石川同人社 六三〇六四

詳)

(*「講義録」休載のお知らせ

六四

第二十三号 (明治十九年二月二十五日刊行)

(広告) 『明法志林』改良広告 / 『中央學術雜誌』第二十四号目次 / 同人社本校入学者案内広告

學術の本体 (接前号) 文学士 前川亀次郎 一〇一

第二十四号 (明治十九年三月十日刊行)

米作保險法 吉田直太郎 一〇二

經濟学ノ必要 (承前) 文学士 天野 為之 一二〇

論説

批評

學術の本体 (接前号) 文学士 前川亀次郎 一〇一

当世書生氣質の批評 半峯居士 二七〇三〇

論学問之独立 (接前々号) 市島 謙吉 一〇七

国憲汎論批評 在静岡会員 山田 一郎 三三〇四三

批評

国憲汎論批評 山田一郎寄稿 六〇六

翻訳

翻 訳

教育に関して政府の責任を論ず(承前)

マコーレイ演説 二六〇―二六三

前橋孝義訳

雑 録

為永春水の批評(承前)

春のや主人 三二〇―三二八

記 事

仏国通信(前号の続き)

三八〇―四二二

静岡県下学術研究会の景況

山田一郎報道 四二二―四二七

横浜支会記事

四二七―四二八

同公会寄附書目

四二八―五

同公会々々員氏名表

五一―五五四

講 義 録

銀行原理(前講ノ続キ)

文学士 天野為之口演(五五―五七)

松井從郎筆記

(広 告) 臨時総会案内(十四日午後一時 於・東京専門

学校講堂) / 東京大学政治理財学科卒業・文学士天野為

之先生著『経済原論』(発売本舗・富山房)〔註〕 / 生徒募

集 告 告 (東京専門学校)

〔註〕右ハ多年東京大学にありて政治理財の学科を研究せられ後ち卒業して東京専門学校講師となるや夙夜に経済学の進歩を談せられて忽らず其名の世間に噴々たる文学士天野為之先生の新著に係ハリ経済の真理原則ハ論じて漏すことなし而して議論の高妙なる立言の整然たる行文の簡明平易なる実ニ尋常の書籍と異なれり蓋し本邦経済上の著訳少なしとせずされども其根本基礎となる可き真理原則の講せるものに至つてハ此書の如く完全充備なるハあらざるなり心と斯学に傾くる諸士ハ必ず之れを坐右に欠く可からず又諸高等学校或ハ学術講究会等に於て教科用書となさば其有益なるや疑を容れざるなり今般刻成る因て廣告す
(*大売捌所に敵々堂が加わり、それまでの団々社、三益社と併せて三社となる。)

第二十五号(明治十九年三月二十五日刊行)

洋行論

文学士 高田 早苗 一―五

手紙書方の改良

市島 謙吉 五十二

学術の本体(接前号)

文学士 前川亀次郎 十一―二十

批 評

佳人之奇遇批評(上)

半峯居士 二二―五四

翻 訳

教育に關して政府の責任を論ず

マコーレイ演説 二四〇三

前橋孝義 記

雜 錄

為永春水の評判 (承前) (*前号正誤有り)

春のや主人 三三〇三六

式亭三馬略伝

三七七〇三

記 事

東京専門学校

四三〇四五

新著 (*天野為之『經濟原論』、スベンサア・ウワルポール著・

高田早苗訳『英国外交政略』)

四七五〇六

横浜支会講学会並に浦和學術研究会

四六〇四七

同攻会臨時大会議、附会則

四七〇

同攻会規則

四七七五四

講 義 錄

銀行原理

文学士 天野為之口演(三〇三六)

松井從郎筆記

誌 第二十六号目次 / 東京専門学校講師・文学士高田早

苗 記『英国外交政略』 / 東京大学政治理財学科卒業・文

学士天野為之先生著『經濟原論』(発売本舗・富山房)

第二十六号 (明治十九年四月十日刊行)

論 說

財政学ノ必要

文学士 天野 為之一六

手紙書方の改良 (承前)

市島 謙吉 六十四

批 評

国憲汎論批評

山田一郎寄送 五二四

翻 訳

普国参議院弁 ベルリン府日本公使館書記官

アレキサンドル、ホン、シイボルド編 二四〇三三

政学得業生 鈴木熊太郎記

雜 錄

式亭三馬略伝 (承前) (*前号正誤あり) 春のや主人 三三〇三七

小説総論 (*春のや主人の前書きあり) 冷々亭主人 三三〇四四

記 事

(廣告) 生徒募集廣告 (東京専門学校) / 『中央學術雜

同政会演説会

四十四、四十五

校友会

四十五

千住駅教育談会

四十六

東京専門学校規則

四十六、四十七

(広告) 東京専門学校講師・文学士高田早苗訳『英国国外

交政略』／『中央學術雑誌』第二十七号目次／米國ウ

イルリヤム・マーチン氏原著『支那古代万国公法』の

予約出版広告『予約出版所・明法志林社』／『当世書

生形氣』全部十七冊合本二冊(註1)／『内地^{註1} 未来の夢』

全部二冊(註2)

(註1) 今般美麗に製本いたし売出候へば一層御嶺負折上候也

(註2) 右ハ春のや先生の新年にて内地雜居後の情態を奇々妙々なる脚
色の小説にて写しだしたる者なり書生形氣とも違ひ馬琴風にもあ
らぬ我國未曾有的好裨史也風俗の変遷はいふも更也国会の模様さ
へも冥示されたる者なり全篇の主人公ハ渥美恭輔といふ一大投機商
にて其外政治家あり小説家あり魔術家あり西洋人あり悪徳美德みな
人となりて活動す地の文ハ専ら平易なる裨史文にて綴り言語ハ尋常
の俗語を用ひてつとめて西洋風に綴られたり殊に此書は奨誠の意
を寓してかゝれたれば勸懲ズキノ皇國人にハ最も面白き裨史といふ
べし否有益なる小説といふべし挿絵口絵ハ稲野年恒子のスゴイ筆な
り今や第一号を発売す第二号も本月の中にいざさん陸続おつかけて

求めたまへ 湯島婦恋坂 晩青堂主人述

売捌所ハ大概いづこにもあり

第二十七号 (明治十九年四月二十五日刊行)

論 説

洋行論(接二十五号) 文学士高田 早苗 一六

民間法典著作の急務 法学得業生 黒川 実司 六十一

財政学ノ必要(承前) 文学士天野 為之 七十六

手紙書方の改良(承前) 市島 謙吉 七十七、七十八

批 評

佳人之奇遇批評(下) 半峯居士 二四、二五

雜 録

西哲叢話 春城字人 三十一、三十二、三十三

記 事

政学講義会 三十九、四十五

総南英学校開校式 四十五、四十六

久留里同政会支会 四十六

静岡県下學術研究会合の景況(接第二十四号)

在静岡会員 山田一郎寄送 四十六、四十七

新瀉演説会追悼会

五二五三

同攻会寄附書目 (前号の続き)

五二五五

講義録

学校管理新説 米国 亜ルバニー師範学校総理 (一〇六)

デーヴヒット、ページ講述

日本 東京 遠藤愛蔵訳

(広告) 本多錦吉郎編『改訂石版摺小学画手本』第一〇七

編註『中央學術雜誌』第二十八号目次 / 米国ウイ

ルリヤム、マーチン氏原著『支那古代万国公法』の予

約出版広告「予約出版所・明法志林社」 / 『当世書生形

気』全部十七冊合本二冊 / 『内地^{雜居}未来の夢』全部二冊

〔註〕小学画学ノ書其類少カラズト雖或ハ冗長ニ亘リ或ハ緻密ニ失シ

能ク其当ヲ得タル者甚タ稀ナルガ如シ然ルニ本編ハ凡ソ文部省改正

画学本ニ倣ヒ専ラ画学ノ教授法ニ基キ總テ目ニ慣レタルヲ集メ平易

簡單ナルヲ主トシテ一ニ兒童ノ力ニ適センヲ務メ且徒ラニ外貌ヲ

装フヲ為サズ究メテ廉価ニシテ其実アルヲ先ニシ能ク教授法ノ

順序ヲ得タル無比ノ良書ナレバ夫ノ杜撰ニ集写シタル者トハ自ラ異

ナル所アルベシ全国ノ学生諸君講読ノ上其言ノ誣ナラザルヲ賜ヘ

第二十八号 (明治十九年五月十日刊行)

論説

文章新論 文学士 坪内 雄蔵 一八

洋行論 (接前号) 文学士 高田 早苗 八三

民間法典著作の急務 法学得業生 黒川 実司 七六

翻訳

普国参議院弁 (接前号) 政学得業生 鈴木熊太郎 六三

雜録

英国改進黨保守兩党領袖列伝 二七

虞ラツドストーン氏小伝 春城学人識 二七〇三一

カートコフ氏美術俗解 冷々亭主人訳 三二〇三七

西哲叢話 春城学人 三二七〇四五

記事

山梨學術大演説の景況 在山梨 山田一郎報道 四五四七

進文学社 四七〇四八

講義録

銀行原理 (接前号) 文学士 天野為之口演 (二七五三四)

松井從郎筆記

記事

(廣告) 点取文廣告(問題「内地雜居の利害及び其実施

乃方法」)「毎日新聞社」/『改進黨新聞』廣告/進文学社

廣告/独逸國製造法煙草稟告

第二十九号(明治十九年五月二十五日刊行)

論說

政体の區別 文学士前川龜次郎講述 一〇九

批評

本朝水滸伝を読む並批評(*半峯居士の前書きあり)

曲亭馬琴 二二〇二二九

翻譯

普國參議院弁(接前号)

政学得業生 鈴木熊太郎訳 二九〇四一

支那人移住論

ヘンリージョージ著 四一〇四六

雜錄

式亭三馬評判(前号の続き)

春のや主人 四六〇五七

横浜同政会支会公開演説

五八

市島謙吉氏

五八〇五九

東京法学雜誌の發行

五九六六〇

政学講義会

六〇

謝告

六一

(廣告) 東京専門学校講師・文学士高田早苗先生訳述「英

国外交政略」(註1) / 『東京法学雜誌』發行廣告「發行

所・集成社」(註2) / 『団々珍聞』第五百四十五号目次

〔註1〕この書ハ英国有名の学者すべんさあ、うあるぼうる氏が英国人民に外交の一斑を識らしめんが為め編述せられたるものに係り左の事項を載す

○第一章自十字軍至那翁敗滅之時○第二章自那翁敗滅至近代○第三章英米の關係及英魯の關係(東方關係)○第四章公使の職務○第五章領事の職務

この書英国外交政略と題すれども其実ハ欧州各国の外交政略なり抑も英国ハ欧州外交の行司にして能く各国の權力を平均す故に英国を主として欧州の外交を觀れば恰かも土俵の中央にありて力士の勝負を觀るが如し蓋し欧州外交の一変一動ハ影響を我東洋に及ぼすことを俟たず故に眼を天下の大勢に著する有志者ハ勿論外交に従事する諸君子ハ必ず斯の如き書を講究せざる可からず

〔註〕 法律ハ国ノ文化ト駢馴ス、若シ夫レ国ノ文化ニシテ進ムナ
 クンバ即ち已マン苟モ然ラスンハ法律ノ発達改良亦得テ期スベキナ
 リ、法律ノ発達改良ニシテ果シテ期スベクンバ本誌ノ起ル実ニ偶然
 ニアラサルヲ知ル矣、本誌ハモト東京専門学校法学部講師、得業生
 学生、其他該校ニ縁故アル諸士ノ設立スル法学会ノ編纂ニ係ル、而
 シテ本誌所掲ノ事項ハ分テ七トナシ(論說)ニハ立法ノ純理、法律
 ノ原則ヲ討究シ(判例)ニハ欧米各土ノ範例及大審院判決ノ要領ヲ
 摘採シ時ニ本邦駐在領事庁ノ訟庭傍聴筆記ヲ載セ(問答)ニハ疑問
 ヲ闡明シ理義ヲ分析シ(翻訳)ニハ泰西法学士ノ新論卓説ヲ訳出シ
 (雜錄)ニハ法律ノ格言、新版法律書ノ批評、泰西法家ノ列伝等ヲ
 掲ケ(官報)ニハ勅令、閣令、省令、何、指令、内訓ヲ録シ(彙報)
 ニハ法学会ノ新事奇聞ニシテ有要ト認ムル者ヲ記載スル者トス、
 顧フニ現今法律雜誌ノ発行其数少シトセス然リト雖モ能ク法学ノ蘊
 奧ヲ極メ技術ノ運用ヲ巧ニシ兩ラ全キヲ得セシムル者本誌ヲ措テ將
 タ何ヲカ求メン、冀クハ国ノ文化ト法律ノ発達ヲ期スルノ士幸ニ
 本誌発行ノ日ヲ待テ愛読ヲ賜ハラントヲ

第三十号 (明治十九年六月十日刊行)

論 說

英国憲法に関する疑問

高田 早苗 一六

民間法典著作の急務 (接二十八号)

法学得業生 黒川 実司 六十四

諸大家論説の比評 亜氏の説を評す

十四〇七

批 評

国憲汎論批評

山田一郎寄稿 二七〇七

本朝水滸伝を読む並に批評 (接前号)

曲亭馬琴 二七〇三

翻 訳

支那人移住論 (接前号)

ヘンリー、ジョージ著 三二七三

天野為之訳

普国参議院弁 (接前号)

シーボルト編 三七〇四

鈴木熊太郎訳

記 事

板屋確太郎氏通信

四一五五

學術研究会

五一

東京専門学校

五一〇五

新著 (*尾崎行雄編述『経世偉勲』前編)

五二

講 義 録

銀行原理

文学士 天野為之口演 三五四三

松井從郎筆記

(廣告)

『中央學術雜誌』第三十一号 / 世界無比特別大

安売広告（書肆原泉堂）／政治理財学科専門文学士土東

専門学校講師天野為之先生『經濟原論』（註一）

（註一）右ハ文学士天野為之先生の名著にして発売後未だ二ヶ月ならざるに勿ち数千部を売尽し久しく品切の処今般紙質を上等にし体裁を美麗にし印刷上の錯誤を訂正し右再版仕候江湖の諸君統々御講説を乞ふ。

第三十一号（明治十九年六月二十五日刊行）

英国憲法に関する疑問（接前号）

文学士 高田 早苗 一六

六合雜誌記者に答ふ

黑白道人 六〇

政体論（接前号）

文学士 前川亀二郎 七七

批評

本朝水滸伝を読む並に批評（接前号）

曲亭馬琴 七五至三

経世偉勲を読む

半峯居士 三三至天

雑録

カトコーフ氏美術俗解（接二十八号）

冷々亭主人訳 二八至三六

翻訳

普国参議院弁（接前号）

シーボルト編 三六〇四二

鈴木熊太郎訳

記事

佐ア登マス亜、スキン迷イ没す

四三

新著（*田口卯吉『日本之意匠及情交』）

四三

（*四十四頁は白紙）

講義録

学校管理新説 米国亜ルバニー師範学校総理

デーヴヒツトページ講述 七〇七

日本東京 遠藤愛蔵訳

（広告）『東京法学雑誌』第一号目次「発行所・集成社」／

東京専門学校講師・文学士高田早苗先生訳述『英国外交

政略』／矢野文雄先生著『和文体文字新論』『発兌・報知

社・集成社』（註一）

（註一）右ハ言語学、字語学、人身視感ノ理ヲ基礎トシ傍ラ古今諸國ノ文字ヲ引証シテ日本ニ用ユ可キ文字文体ヲ論定セル者ナリ此書一タヒ出テ日本ノ文字、文体論始テ大ニ定ルト云フモ可ナリ此書ヲ繙ク者ハ形字、声字、音字ノ區別及ヒ羅馬字ノ日本ニ不利ナル事等ヲ知ルノミナラス人類ノ言語、音声、文学ノ原理定則ヲ学ヒ得ルノ大

利益アルベシ故ニ朝野ノ紳士ハ勿論、教育ニ関スル公私学校ノ教員
諸君ハ別シテ一読シ置カサル可カラザルノ珍書ナリ

第三十二号 (明治十九年七月十日刊行)

論説

文章新論 (接二十八号) 文学士 坪内 雄蔵 一九

谷田部良吉氏の悲憤慷慨の説を読む 黑白道人 一七五

政体論 (接前号) 文学士 前川亀二郎 一五〇

批評

本朝水滸伝を読む並に批評 (接前号) 曲亭馬琴 三七〇

日本の意匠及情交 半峯居士 四五〇

記事

東京専門学校 五十二

(*五十二頁は白紙)

講義録

銀行原理 文学士 天野為之口演 (四三〇-五)

松井從郎筆記

(広告) 『東京経済雑誌』 第三百二十四号目次 / 元田直先生

題字・下司盛吾君編輯 『撿税至要』 / 『教育時論』 第四

十四号 (既発) 目次 / 鳥料理広告

第三十三号 (明治十九年七月二十五日刊行)

論説

専売特許論 文学士 天野 為之一九

婦人の涅歯を禁すへし 吉田直太郎 九三

直税間税果シテ區別アル歟 高田 早苗 一四〇

批評

日本の意匠及情交 (接前号) 半峯居士 二五〇

翻訳

哲学ノ定義 ハルバート、スペンサー原著 二七〇

英学科得業生 佐竹時之助訳

記事

東京専門学校学年試験問題 三九〇

東京専門学校得業生及卒業論文

(政治部得業生人名及卒業論文・法学部得業

生人名及卒業論文・英学部得業生人名) 五五〇

静岡高等英華学校 五九〇

(広告) 『東京法学雑誌』第二号目次〔発行所・集成社

書店〕／『点取競文新誌』第一号〔既発〕〔点取競文新誌

社〕／高等英華学校生徒募集広告

第三十四号 (明治十九年八月十日刊行)

論説

本年度得業の会員諸氏に告ぐ

在静岡 山田 一郎 一七

議院政治の君主は毫も政権を有せざる歟

摂山 樵夫 七五

学者待遇論

政学得業生 井上金之助 十五、十四

地租は租税の最良なるものなり

政学得業生 和光孫太郎 二四、四三

雑録

柳亭種彦の評判

春のや主人 四三、五二

記事

東京専門学校得業証書授与式

五二、五九

東京専門学校得業生宴会

五八、五九

校友会小会

字都の宮学術演説会

(広告) 『東京法学雑誌』第二号目次〔発行所・集成社〕

／編纂局移転広告(ジュリスト編纂局)／『東京経済雑

誌』第三百二十七号目次／『学藝雑誌』第一号目次〔発

行所・賛育社〕／『教育雑誌』第十一号発兌〔発行所・

賛育社〕

第三十五号 (明治十九年八月二十五日刊行)

論説

英国憲法に関する疑問(接三十一号)

文学士 高田 早苗 一七

本年度得業の会員諸氏に告ぐ(承前) 山田 一郎 八、十四

官設鉄道利害論 政学得業生 森 鴻治郎 十五、十八

批評

日本の意匠及情交(接前号)

半峯居士 二八、三五

雑録

四日の記

咸堂処士 三五、四三

曲亭馬琴の伝

四三〇四九

記事

宇都宮演説会

四九

南湖学術演説会

四九〇五

加納山学術演説会

五〇五

静岡高等英華学校開校式

五一

東京専門学校

五一

新著（*矢野文雄『周遊雜記』／林茂淳編『口談演説集』）

五二〇五二

会員来往（*逍遙二週間の帰省記事）

五二

講義録

銀行原理（接三十二号）

文学士 天野為之口演 五二〇五二〇

松井從郎筆記

（廣告）東京専門学校入学試験（九月十一日）廣告『毎日』／『電報』

商業電報「発行所・商業電報社」／『東京經濟雜誌』第

三百三十号目次／日本藥局方廣告／書肆後淵閣廣告

普く天下の書生諸氏に告ぐ

黑白道人 一〇六

批評

彌兒頓論

麻鴻礼著 六〇五

南莊漁史記

雜録

ハーチントン侯の略伝

政学得業生 谷新太郎纂訳 五二〇五二

咸堂処士 五二〇五三

四日の記（接前号）

彼得大帝の遺詔 アトランチットモンユリー抄訳 五二〇五四

翻訳

英国借地法ヲ論シテ労働者救治ノ策ヲ講ス

ヘンリーフオーセツト著 五二〇五三

中川吉十郎訳

支那人移住論（接三十号）ヘンリー、ジョージ著 五二〇五

天野為之訳

第三十六号（明治十九年九月十日刊行）

記事

会員来往

五九

新著 (* 谷新太郎 『内地雜居の利害及び其方法』 /

『政典集誌』 第一号 / 『中外兵談』 第一号)

五九

商業電報

五九六六

(廣告) 『東京經濟雜誌』 第三百三十一号 目次 / 『教育時論』 改良ノ廣告

第三十七号 (明治十九年九月二十五日刊行)

有神論と無神論 其一

植村 正久 一八

本年度得業の會員諸氏に告ぐ (承前)

在静岡 山田 一郎 八〇

外山氏ノ女子教育說 耶蘇教擴張說ヲ讀ミ一歎

一笑ス

西洋天狗稿 二五〇

批評

彌兒頓論 (接前号)

麻鴻礼著 三六〇

南莊漁史

翻訳

現時商業危急ノ原因ヲ論ズ

仏国 ピー、エル、ポリュウ著 四〇〇

『中央學術雜誌』 細目

日本 岡田猛熊訳

記事

名古屋學術演說会

五二〇

東京専門学校

五三〇

同公会大会

五四

講義録

学校管理新説 (接三十一号)

米国 亞ルバニー 師範学校 総理

デーヴ ヒット ページ 講述 一九〇

日本 東京 遠藤 愛蔵 訳

(廣告) 『學術協會雜誌』 / 『東京經濟雜誌』 第三百三十三、

四号 目次 / 『東京與論新誌』 第二百五十六号 目次 / 『教

育時論』 大改良ノ廣告

(* マイクロ版では廣告「附録」がある)

第三十八号 (明治十九年十月十日刊行)

論說

婚姻論

文学士 高田 早苗 一五

欧洲ニ於テ封建ノ起リシ所以ヲ論ズ

五〇五

(*内題では執筆は匿名だが、目次には「三十三次」とある。)

批評

日本の意匠及情交 (接三十五号)

半峯居士 五五〇

彌兒頓論 (接前号)

麻鴻礼著 二二〇
南莊漁史

翻訳

現時商業危急ノ原因ヲ論ズ (接前号)

仏国 ピー、エル、ボリユー著 二二〇
日本 岡田猛熊訳

支那人移住論 (接前々号)

ヘンリー、ジョージ著 二五〇
天野為之著

英国借地法ヲ論シテ労働者救治ノ策ヲ

講ス (接三十六号) ヘンリーフォーセット著 四七〇
中川吉十郎訳

記事

横浜支会

五三三

山梨学会

五三三
五五五

山田一郎氏

五五四

學術協会雑誌

五四

新著 (*高田早苗講義『国会法』/瓜生寅講述『女子家政学』)

五四
五五五

(広告)『教育時論』大改良ノ廣告/『東京經濟雜誌』(*定

価引下げ)文学士高田早苗講義『国会法』/『六合雜誌』第

六十九号目次/『東京与論新誌』第二百五十八号目次 五六

(*『東京經濟雜誌』廣告の途中まで頁あり)

第三十九号 (明治十九年十月二十五日刊行)

男女同権の新策

高田 早苗 一〇九

有神論と無神論 其二

植村 正久 九七

憲法希望の説

法学士 片山清太郎 七〇

批評

彌兒頓論 (接前号)

麻鴻礼著 二二〇

南莊漁史訳

雑録

柳亭種彦の評判 (接三十四号)

春のや主人 二九〇

曲亭馬琴の評判

三二〇

翻訳

英国借地法ヲ論シテ労働者救治ノ策ヲ講ス(接前号)

ヘンリーフォーセット著 三五四六

中川吉十郎訳

記事

名古屋学術演説会

会員 山田 一郎 四八〇辛

稗田三平氏

辛

秋期運動会

五二〇五三

新著(*坪内逍遙『朗蘭夫人伝』/林茂淳『講談演説集』第二冊)

五三三〇五

講義録

学校管理新法

(二五二五三)

(広告)

『東京与論新誌』第二百六十一号目次/『基督

教新聞』第百六十八号「発行所・警醒社」/『東京経済

雑誌』第三百三十九号/文学士高田早苗君講義『国会法』

(註一)

〈註一〉国会開設の期甚だ近く憲法の草案將に成らんとす此切迫の時勢に際し人々準備を要すること勿論なれども世間真面目に之に従事する者稀にして口に国会開設の希望を説くも如何にして議員を撰挙し

如何にして国会を組織し如何にして議案を提出し如何にして之を議決し如何にして委員会を設け如何にして討議会を開く等の方法及国会の特権權力等ハ如何なる者なるやを識る者未だ甚だ尠し本会此に觀るあり今度憲法法学に熱心なる高田早苗君に請ひ彼有名な英國国会の書記官メイ氏及米國著名の憲法家クッシング氏等の著述を始め欧米の国会法を参酌して(科外講義録)を發行し廿三年の未だ來らざる間に於て議院政治の訓練を為さんと欲する人々の用に供せんとす切に請ふ国会開設に熱心なる人士統々入会ありて他日国会の議員となり若しくは撰挙者となり若しくは其得失の批評者となるの準備をせられんことを但し此講義録は毎月一回發兌し十二箇月を以て卒業する者とす目錄の概要左の如し

目錄○第一篇議員の撰挙○第二篇国会の組織○第三篇国会の特権○第四篇国会の權力及職務○第五篇上下院の協議○第六篇(上) 動議法(中) 討議法(下) 決議法○第七篇(上) 選抜委員会(下) 全院委員会○第八篇(上) 公安の通過(下) 私案の通過○第九篇(各篇數章に分けると雖も今之を略し単に大要を掲ぐ)

右は會員五百名に滿るを俟ち來る十一月を以て始業す本会從來發行し來りたる政治原理(講師市嶋謙吉氏) 歴史(講師坪内雄蔵氏) 法律原理(講師三宅恒徳氏同渡邊安積氏) 租稅說(講師高田早苗氏) は毎月二回之を發兌し已に第六回到れり右講義録は來十一月を以て卒業す可きが故に本会教則に基き直に第二期の講義を開板せんとす又同講義録第一回第二回等ハ欠品切の所今般再板したるを以て新たに入会せらる、諸君には第一回より取揃差上べし(會費一科毎月金二十錢四科毎月金七十錢) 会則御入用の御方は直に呈すべし

第四十号 (明治十九年十一月十日刊行)

論說

近世哲学

文学士 三宅雄二郎 一〇四

婚姻の事を論じ併せて高田君の説を評す

愛秋居士 四十三

欧州ニ於テ封建ノ起リシ所以ヲ論ズ(接二十八号) 主七九

(*内題では執筆は匿名だが、目次には「三十三次」とある。)

演劇改良会の解散を望む

高田早苗講演 三十三

筆記学者 市東謙吉かきとる

批評

彌兒頓論(接前号)

麻鴻礼著 三十二

南荘漁史訳

翻訳

現時商業危急ノ原因ヲ論ス(接三十八号)

仏国 ピー、エル、ボリュウ著 四七

日本 岡田猛熊訳

雑録

小説論

アントニー、トロップ著 四七、五八

土屋元吉訳

記事

同攻会演説

五十六

東京専門学校

五十七

新著(*渡辺治訳・市東謙吉筆記『政海の情波』巻の一) 五十七、五十八

(広告) 『六合雜誌』第七十号目次(発行所・警醒社)

／『東京与論新誌』第二百六十三号目次／『教育時論』

五十五号目次／『国会法』

第四十一号 (明治十九年十一月二十五日刊行)

論說

真正の改正

高田早苗演説 一〇九

筆記学者 市東謙吉かきとる

信仰

文学士 高田 早苗 九十四

妄りに誣謚を事とする勿れ

春のや主人 十四、十五

近世哲学(接前号)

文学士 三宅雄二郎 二十三、二十四

批評

彌兒頓論(接前号)

麻鴻礼著 二九〇三五

南莊漁史記

第四十二号(明治十九年十二月十日刊行)

翻譯

近時の支那

愛秋居士 三五〇四五

保護貿易論

文学士 天野 為之一五

雜錄

無髮無齒之将来

近世哲学(接前号)

文学士 三宅雄二郎 六十六

ウアジル、ジー、イトトン氏説 四五五五二

翻譯

有神論と無神論 其三

植村 正久 六十三

大石勉三訳

ズスレリー論 ウオルアター、バジホット著 三三三八

記事

山梨県下学術研究会合の発起 山田 一郎 報道 五二〇五五

政治汎論

黒白道人訳 彪諤氏著 三八〇四五

新著(*尾崎行雄編述『經世偉勳』後編/高田早苗講義『租税論』)

雜錄

愛秋居士訳

五五〇五六

雜錄

橘園耕夫訳 四五〇五二

(廣告) 『東京与論新誌』第二百六十五号目次/『東京

泰西小説略史

橘園耕夫訳 四五〇五二

經濟雜誌』第三百四十四号目次/『基督教新聞』第百七

記事

洋行

十四号目次「発行所・警醒社」/『教育雜誌』(本月二十

校支会

五二〇五二

五日第十八号刊行)「発行所・賛育社」/『学藝新誌』(本

同攻会上田支会

五二〇五二

月二十日第七号刊行)「発行所・賛育社」

同攻会上田支会概則

五二〇五二

東京専門学校法学部

五四〇五五

徴兵令改正及判事試験

五五〇五八

東京法学雑誌

五六一

東京同政会支会人名簿

五六一

同政会々員氏名表

五七〇六二

(広告) 『教育時論』第五十八号目次「発兌所・開発社」

／『教育時論』第五十九号目次「発行所・開発社」／文

学士高田早苗君講義『国会法』／火事見舞御礼広告(小

川寅六)／『基督教新聞』第百七十五号目次／『法学応

用雑誌』／『英文東京独立新聞』第四十八号目次／文学

士天野為之先生著『商政標準』／文学士高田早苗先生講

述『租税論講義』合本／『東京法学雑誌』改良広告／『学

術雑誌』「発行所・賛育社」／『学藝新誌』「発行所・賛育

社」

(*)『商政標準』まで頁あり)

第四十三号(明治十九年十二月二十五日刊行)

英国々会財政監督ノ方法

高田早苗稿 一〇

保護貿易論(接前号)

文学士 天野 為之 一五

翻 訳

アダムスミッス論

ウォルターア、バジホット氏著 一五〇二

大石勉三訳

近世の支那(接前号)

二五〇二

政治汎論(承前)

彪謨氏著 三〇〇三

愛萩居士訳

現時商業危急の原因を論ず(接四十号)

仏国 ピー、エル、ポリユー著 三六〇四七

日本 岡田猛熊訳

雑 録

泰西小説略史

橘園耕夫訳 四七〇五三

記 事

東京専門学校校友会

五三〇五四

同政会大会

五三四

判事試験

五三四

論 說

新著（*独逸博士グナイスト先生原著・法学士江木衷氏『英国行政法

講義』/信夫黎氏評閱・宮崎璋蔵氏著述「叙述文範」 五四〜五十五

（広告）『基督教新聞』第百七十七、八号目次「発行所・

警醒社」/『東京与論新誌』第百六十八、九号目次/

『東京独立新聞』第四十九号目次/恕軒信夫黎文則・

文範」上卷（中・下巻嗣出）「発売所・丸善書店」〔註一〕

〔註一〕今日邦文ノ衰ル「甚シ大抵国典ヲ修ル者ハ漢文ヲ知ラズ漢籍ヲ

読ム者ハ邦文ヲ喩ラズ英書ヲ学ブ者ハ和漢文ヲ味ハズ其所見各一辺

ニ僻メ真ノ妙文ヲ解セズ是以後方針ニ惑ヒ艱澁不通支離滅裂自是ト

スル者多シ本書ハ莊重典麗ノ邦文ヲ漢訳シ又雄渾雅健ノ漢文ヲ和訳

シ恕軒黎州ニ家並ニ著者ガ多年胸中ニ蘊蓄セシ細評ヲ附シ前人未發

ノ秘ヲ發シ作家独特ノ瀟瀟開キ作文ノ活機ヲ示セシ書ニメ事ノ偉文

ノ妙日本外史近古史談ニ接踵メ本朝虞初譚海ト頡頏スベキ新著也

第四十四号（明治二十年一月十日刊行）

論説

外国為替ノ論ニ関シテ古今經濟学者ノ謬ヲ詰ル

文学士 天野 為之一五

英国代議制度發達の一斑

秋声主人稿 五十五

『中央學術雜誌』細目

批評

重野安繹先生「史の話第三回」ヲ読ム

秃山居士稿 五十三

翻訳

政治学沿革史 フレデリック、ポルロツク著 三三〜四十四

谷新太郎訳

雜録

噠馬国皇太子「ハムレット」ノ譚 秃山居士 四四〜五二

太宰春台服部南郭兩翁の手簡 五二〜五十六

記事

同攻会講演 五十六〜五十七

代言試験及第 五十七

県会議員当撰 五十七

（広告）『基督教新聞』第百八十一号目次「発行所・警

醒社」/『教育雜誌』発行所・賛成社」/『東京經濟雜

誌』（*定価引き下げ広告）/『東京与論新誌』第二百七

十二号目次/開発社廣告（本年モ開発社ノ事業ヲ贊助ア

レ) / 通信講学会 / 『教育時論』 / 諸取次 / 文学士高田
早苗君講義 『国会法』 五九〇六

(*「通信講学会」 広告途中まで頁あり)

第四十五号 (明治二十年一月二十五日刊行)

論 說

美術論 文学士 坪内雄蔵演説 一七六

速記者 市東謙吉筆記

英国代議政体発達の一斑 (接前号) 秋声主人稿 六〇七

批 評

同攻会員學術講演の評 山の手 無名生 二六〇三五

彌兒頓論 (接前々号) 麻鴻礼著 三五〇四

南莊漁夫訳

翻 訳

政治汎論 (接前々号) 彪謨氏 四一七四十五

雜 録

噠馬国皇太子「ハムレット」ノ譚 (接前号)

秃山居士 四六〇五十四

記 事

演説会・本会大会 五五

報告 五五五五七

新著 (*尾崎行雄『新日本』 / 依田百川『吉野拾遺名歌書』 /

天野為之『商政標準』) 五七

入会者氏名 五八

進文学社 五九

(広告) 文学士高田早苗君講義 『国会法』 / 『東京与論新

誌』 第二百七十六号 / 生徒募集広告 (進文学社)

第四十六号 (明治二十年二月十日刊行)

論 說

仏蘭西の景況 宇川盛三郎 一八

近世哲学 (接前々号) 文学士 三宅雄次郎 八二

批 評

吉野拾遺名歌譽批評 半峯居士 二二〇五九

翻 訳

アダム、スミッス論 (接前々号)

ウォルター、バジホット著 二九三、三二九

大石勉三訳

噠馬国皇太子「ハムレット」ノ譚 (接前号)

禿山居士 三六〇、四四五

記事

凶報

四五〇、四五六

東京経済学講習会

四六一

東京専門学校

四六一

政学講義会

四六一

新著 (中山整爾『日本宗教維持確論』)

四一七

(広告) 古谷伝編纂『日本史要』(*文部省検定済小学教科書) / 『哲学雑誌』第一号目次 / 高等学校生徒募集(進

文学社) / (*以下、第二学期政学会講義録科目広告)のなかに

あげられた著書) 講師市島謙吉氏講述『政治原理』 / 法学

士片山清太郎氏講述『法律原理』 / 文学士高田早苗氏注

釈『ミル代議政体論』 / 文学士天野為之氏講述『銀行論』

/ 文学士坪内雄蔵氏校閲・講師前橋孝義氏講述『羅馬

史』 / 文学士高田早苗氏講義『国会法』

四一七、四一八

第四十七号 (明治二十年二月二十五日刊行)

論説

仏蘭西の景況 (接前号)

宇川盛三郎 一〇

英国代議制度発達の一斑 (前々号の続) 秋声主人稿 一〇、一六

批評

批評彌兒頓論 (接前々号続)

麻鴻礼著 一六、二一

南莊漁夫訳

翻訳

政治学沿革史 (四十四号の続)

フレデリック、ポルロック著 二二、三二

思水漁夫訳

アダム、スミツス論 (接前号)

ウォルター、バジホット著 三二、四四

大石勉三訳

雑録

ジヨオフレ、チヨソーの伝

陽城居士 四五、五五

(*「高等学校生徒募集」まで真あり)

記事

東京経済学協会

五五

宗方文造氏

五五

本会々議

五五

新著（*田口卯吉『日本開化之性質』支那開化小史 卷之三／中山整

爾『日本宗教維持確論』

五五

（広告） 島田鳥山、末広鉄腸両君批評・田口卯吉著『支

那開化小史』卷之三（註）／木村熊二君序・田口卯吉著

『再日本開化之性質』〔発兌・経済雑誌社〕／『国民之友』

第一号目次／古谷伝編纂『日本史要』（*文部省検定済小学

教科書）／『基督教新聞』第百八十六、七号目次／高等・

中学校生徒募集（進文学社）

（註） 此書は前漢外戚の有様より後漢の興亡、三国の鼎立、晋の天

下を一統するに至る迄の変遷を論述せるものなり今度出版社仕候間

続々購読を賜へ

第四十八号（明治二十年三月十日刊行）

仏蘭西の景況（前号ノ続）

宇川盛三郎 一五二

外国為替ノ論ニ関シテ古今経済学者ノ

譯ヲ詰ル（接四十四号）

文学士 天野 為之 二二五

エドモンド、スペンサーの伝

暘城居士 二四〇

翻訳

女子の参政権（*北亞米利加雜誌より抜粹） 秋声主人 三四四

記事

上田支会

四五

内外発明新報

四六

森之雄氏

四六

東京専門学校

四七

政学部一年生問題

四七

政学部二年生問題

五〇

政学部三年生問題

五二

法学部一年生問題

五四

法学部二年生問題

五八

法学部三年生問題

六二

優等首座人名

六六

論説

国会議長論

文学士 高田 早苗 一五二

社告

六六

廣告 (成軒学人・石原先生編輯 『実地技術全集』)

『日本双無 簡便実益 万色染液製造法伝授秘録』 / 代言人廣告 六六七八

(廣告) 『男女勤学新誌』 第一号目次 / かなのくわい廣告 /

『六合雜誌』 第七十四号目次

第四十九号 (明治二十年三月二十五日刊行)

論説

合本会社論 文学士 天野 為之一五

婚姻論 横山 雅男 五〇五

徳川治世ノ原因 高木守三郎 二五〇三六

翻訳

宇宙ハ天律ノ管下ニ属スル所似ヲ論ス

在米国・茨木宗太郎訳述 三六〇四五

アダムスミツス論 ウオルター、バジホット著 四五〇五三

大石 勉三訳

雑報 (*目次では「雑録」となっている)

新刊紹介 (*須藤南翠 『懺贖痴人之夢』 / 文学士高田早苗君著 『国会

『中央學術雜誌』 細目

法』 第一卷 / アレ井サンドル、ヂユマ著・橋村居士関直彦訳

『西洋復讐談』 / 藤田鳴確 『済民偉業録』 五三〇五五

(廣告) 文学士高田早苗 『国会法』 / 『六合雜誌』 第七

十五号目次 / 『東京經濟雜誌』 第三百五十九号目次 / 『国

民之友』 第二号目次 [発行所・民友社] / 『団々珍聞』

第五百九十三号目次 / 『教育雜誌』 第二十八号目次 [発

行所・賛育社] 五五〇五六

(* 『東京經濟雜誌』 広告まで頁あり)

第五十号 (明治二十年五月十日刊行)

論説

小説談 嶋田 三郎 一九

万法唯心説 島地 黙雷 九〇六

徳川治世ノ原因 (承前) 高木守三郎 六〇三三

翻訳

アダム、スミツス論 (前号ノ続キ) バジホット著 三三〇三六

大石 勉三訳

宇宙ハ天律ノ管下ニ属スル所似ヲ論ス (前号ノ続)

在米国 茨木宗太郎訳述 三六〇四五

雜 錄

横浜支会

四七

亀田協会

四七

上洲佐位郡演説会

四七、四八

法学速成雜誌

四八

(廣告) 『政典集誌』第二十五号目次 / 『東京經濟雜誌』

第三百六十六号目次 / 『教育雜誌』第三十二号目次 / 『内

外學藝』發行所・學藝雜誌社 / 『基督教新聞』第百九

十六号目次 / 『東京与論新誌』第二百八十九号目次 / 田

口卯吉著・島田鳥山、末広鉄腸、小池将堂三君批評『支

那開化小史』卷之四『発兌・經濟雜誌社』 / 『国民之友』

第三号目次『發行所・民友社』 / 田口卯吉著・小池靖一

君、嶋田三郎君序・香亭中根淑先生跋再版『經濟策』『発兌・

經濟雜誌社』 / 『教學論集』第四十一編目次『發行所・

無外書房』

四九、五三

(* 『經濟策』廣告途中まで頁あり)

第五十一号 (明治二十年五月二十五日刊行)

論 說

学生近視眼ノスタチスチック

横山 雅男 一八

近世哲学 (四十六号ノ続き)

文学士 三宅雄次郎 八、九

万法唯心説 (前号ノ続き)

島地 黙雷 十九、二十

翻 訳

アダム、スミツス氏論 (接前号)

ウォルターアバジホット著 三三、三二

大石勉三訳

宇宙ハ天律ノ管下ニ属スル所以ヲ論ス (接前号)

在米国 茨木宗太郎訳 三三、三四

雜 録

サカソウハロールド物語 (*磯野徳三郎訳)

四十四、四六

小説の君に (*大和田建樹長歌)

四六、四七

(廣告) 『東京与論新誌』第二百九十一号目次 / 『基督

教新聞』第百九十九号目次 / (*以下、発兌元・普及舎

「教科書専売所廣告」掲載の著書) 田中登作関・教育書

専売所普及舎編述 『教育心理学術語詳解』再版 / 山泉悌三郎訳

補『理科仙郷』(第一、六冊既刻) / ペインター氏原著・

杉浦重剛訳『教育全史』(二ノ巻出版) / 文学士井上円了

著『倫理通論』(二ノ巻出版) / 『国民之友』第四号目次

「発行所・民友社」 / 『基督教新聞』第二百号目次 / 『商律要鑑』予約出版広告 / 『教育雑誌』第三十二号

第五十二号 (明治二十年六月十日刊行)

論説

国会法を講ず

文学士 高田早苗演説 一〇
速記者 市東謙吉筆記

近世哲学 (接前号)

文学士 三宅雄次郎 一〇五

外国為替輸送点ノ一二付キ天野為之氏ニ質ス

拔山居士 二五〇

翻訳

ウヰリヤム、セクスピアの伝

暘城居士纂訳 三二〇

政治学沿革史 (四十七号の続)

ウヰリヤム、ポルロツク著 三五〇

天外逸史訳

雑録

横浜懇親会 四八

政学会臨時講演 四八・四九

同政会私開演説 四九

国民の教育 五九

新著 (*井上円了) 『仏教治論序論』 / 小野梓 『東洋遺稿』 / マコオレ

工著 吉田直太郎 『のぼる彌見頼論』 / 『成立学舎女子部講義録』 第一号 五〇・五一

(広告)

『国民の教育』第一冊目次 / 代言人広告 (森三雄) / 『教育時論』大改良ノ広告 / 田口卯吉序・乗竹孝

太郎校正・宮川仁吉註釈『所得税法注釈』(発兌・経済雑誌社)註 / 『東京与論新誌』第二百九十四号目次 / 『基督教新聞』第二百六号目次 / 『教学論集』第四十二

編 [発行所・無外書房] 五三・五四

(* 『教育時論』大改良ノ広告まで頁あり)

〈註〉 所得税発布せらる而して人の納税者たる否とハ其注釈の如何に因る多し故に各所得者ハ先づ法律各條の精神を詳悉して権務共に之を完ふせんを要す況や其議決乃如何ハ各人の利害に直接の影響を及ぼす郡区长調査委員府県常置委員等に於てをや抑々比税 理論上最も公平にして実施上最も困難なりとハ学者間の定論なり而して今や我国実施の期に際し私かに千百の件紛出せんことを懼るゝなり是

れ之を註釈して納税者徴税者を首とし広く世の經濟家法律家の參考に供せんと欲する所以之江湖の諸君請ふ幸に一覽を賜へ

第五十三号 (明治二十年六月二十五日刊行)

論説

經濟社会の不平等を予防する方法

文学士 天野為之演説 一七二

速記者 市東謙吉筆記

正婚論

横山 雅男 一七七

国会法を講ず (接前号)

文学士 高田早苗演説 一八二

速記者 市東謙吉筆記

近世哲学 (接前号)

文学士 三宅雄次郎 一七三

翻訳

宇宙ハ天律ノ管下ニ属スル所以ヲ論ズ (五十一号の続き)

在米国 茨木宗太郎訳 一七四

雑誌

同攻会大会

一七六

東京専門学校

一七七

東京専門学校々友会

一七八

有志商工会演説

一八〇

高山圭三氏

一八一

下越地方学術振興の略況

一八二

(廣告) 『政典集誌』 第一一二十五号目題、二十六号目題

／『仏国巴里大学校教師・法律大博士ボアステール先生著

『商法講義』／改名廣告 (中川静)／『国民之友』 第五

号目次／『基督教新聞』 第二二三号目次／『東京与論新

誌』 第二百九十四号目次／『教育雜誌』 各部門記事改良

廣告

一八三

(* 『東京与論新誌』 廣告途中まで頁あり)

第五十四号 (明治二十年七月十日刊行)

論説

人生学 (Demotology) 一班 吳文聰演説 一八四

国会法を講ず (接前号) 文学士 高田早苗演説 一八五

速記者 市東謙吉筆記

經濟社会の不平等を予防する方法 (前号の続き)

文学士 天野為之演説 一八六

速記者 市東謙吉筆記

翻 訳

宇宙八天律ノ管下ニ属スル所以ヲ論ス(接前号)

ドレーパー著 二六〇三三

茨木宗太郎訳

政治学沿革史(接前々号)

ウ井リヤム、ポルロック著 三四〇四二五

陽城居士訳

雑 録

東京専門学校々友会

会員消息

哲学館

速記法講習会

遊船具楽部

(広 告)

『東京与論新誌』第二百九十八号目次／『六合雑誌』第七十八号目次／『教学論集』第四十三編目次／

『万国法律集覽』第五卷目次／『東京經濟雜誌』第三百七十四号目次／改名広告(中川静)／森本介石編纂・島

田三郎、小崎弘道二君之序 『日本全国基督 教信託同盟会演説集』／『教育

時論』第八十号目次「発兌所・開発社」／『欧米政典集

誌』第二十七号目次「発行所・政典集誌社」／『中央学

術雜誌』第四十八、五十三号目次 五十二

(* 『欧米政典集誌』 広告まで目次あり)

第五十五号(明治二十年七月二十五日刊行)

論 説

ケンブリッジ大学ノ実況 末松謙澄演説 一五

林茂淳筆記

制法学ヲ論ス 法学士 片山清太郎 一五〇一五

東西女権の伸縮 秋声主人稿 二四〇三一

人生学 (demorogy) 一班(接前号) 呉文聰演説 三二〇四二

雑 録

東京専門学校校懇親会 四一〇四二

東京専門学校卒業式 四二〇五二

群馬栃木両県学術演説会 五二〇五二

(広 告) 『教育時論』第八十二号目次「発兌所・開発社」

／『東京与論新説』第三百一号目次／『教育論集』第四

雜 録

十四編「発行所・無外書房」／『国民教育』第三冊目次

関直彦氏来翰

三七〇四二

「発行所・興文社」／『中央學術雜誌』第四十八〇五十

板屋確太郎氏来翰

四一〇四三

四号目次

五八〇六二

新粧之佳人（*新刊紹介）

四二

（*『中央學術雜誌』第四十八号広告まで頁あり）

新編浮雲（*新刊紹介）

四三〇四三

東洋遺稿 下卷（*新刊紹介）

四三

東京専門学校学校年試験問題

四三〇五二

（広 告）『教育時論』第八十三号目次「発行所・開発社」

論 説

東京専門学校校得業生諸君に告ぐ

矢野文雄演説（略記）一〇

市東謙吉筆記

第六卷目次／『基督教新聞』第二百九号目次／『東京与論新誌』第三百三号／『中央學術雜誌』第四十九〇五十

世界不景氣の原因

乘竹孝太郎演説 九七

ケンブリッジ大学の実況（前号の続き）

末松謙澄演説 六〇二六

林茂淳筆記

第五十七号（明治二十年八月三十日刊行）

翻 訳

政治学沿革史

ホルロツク著 二九〇三七

組合營業の利害

文学士 天野為之演説 一〇二

陽城居士訳

歐洲の土制及び其評論

秋声主人稿 二〇〇三二

論 説

翻譯

歴史論

加礼爾著 三二〇四三

赤石定蔵訳

ツレンドニオン
商業同盟及罷工同盟ヲ論ス 博士 寶節徳原撰 四三〇五二

法学得業生 中川靜訳述

雜錄

大隈英麿氏

五二

国会法 第二卷 (*新刊紹介)

五二

統計詳説 (*新刊紹介)

五三

稟告

五三

(広 告) 『国民の教育』第四冊目次 / 『東京与論新誌』

第三百五号目次 / 『欧州政典集誌』第三十二号目次 / 『基

督教新聞』第二百十二号目次 / 『教育時論』第八十五号

目次 [発行所・開発社] / 『教学論集』第四十五編目次

[発行所・無外書房] / 『東京經濟雜誌』第三百八十三

号目次 / 転居広告(会員・森鴻次郎) / 『中央學術雜誌』

第五十一〜五十六号目次

五四〜五六

(*転居広告まで頁あり)

第五十八号 (明治二十年九月十五日刊行)

論說

批評の標準 文学士 坪内雄蔵口述 一八

食田生筆記

犯罪と年齢の關係 横山 雅男 八七

世界不景氣の原因(接第五十六号) 乘竹孝太郎演説 十三〜二十

翻譯

歴史論(承前) 加礼爾著 三二〇三七

赤石定蔵訳

商業同盟及罷工同盟ヲ論ス(承前)

博士 寶節徳原著 三二七四三

法学得業生 中川靜訳述

雜錄

東京専門学校 四三〇四四

出版月評(*新刊雜誌紹介) 四三〇四五

(広 告) 『万国律法集覽』第八卷目次 / 『東京与論新誌』

第二百八号目次 / 『基督教新聞』第二百十六号目次 / 『教

育時論 第八十七号目次「発行所・開発社」／『東京經濟雜誌』第三百八十五号目次／『中央學術雜誌』第五十二〜五十七号目次
四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

(*『東京經濟雜誌』広告まで頁数あり)

第五十九号 (明治二十年十一月三十日刊行)

論 說

警醒社の高橋五郎氏に答ふ 文学士 三宅雄次郎 一八

法理ノ沿革ヲ論ス

バチユラル、ラフロース 中村忠雄未定稿 八六

英雄論

筑東居士 九三

翻 訳

パルメルストオン論 ウオルター、バジホット著 二七、二八

思水漁夫訳

非適者生存論

維廉虞礼氏原著 三六、三七

民谷吉次郎抄訳

雜 録

紀念演説会

四八

横浜壯年協会

四八、四九

講義録

四九、五一

婚姻論

五一、五二

同攻会

五二、五三

稟告

五三、五四

(廣告)『東京與論新誌』第三百十七号目次／『基督教新聞』

第二百二十二号目次／『教育時論』第九十二、四号目次

「発行所・開発社」／『東京經濟雜誌』第三百八十八号

目次／『教學論集』第四十六編目次「発行所・無外書房」

／『東京法律新聞』第六十八号(既刊)／『中央學術雜誌』第五十四〜五十八号目次／新入会員 五八、五九

(*『東京法律新聞』広告途中まで頁あり)

【附記】高田早苗、坪内逍遙への関心から本「細目」作成を思い立った。文学、政治、法学、経済などの諸分野が交錯する(場)を示すには、「細目」が適すると考えたからである。本稿を作成するにあたり、特に竹盛天雄氏、山田俊治氏からご教示いただいた。また、基礎作業の段階で現代政治経済研究所の方々にお世話になった。記して謝意としたい。

(とえだ ひるかず 本学文学部助手)